

日本テレマン協会

2013 年度 社会的活動報告書



文化が創造する
新しい社会の
ありかたを追求

Telemann Institute Japan

The marriage of social and cultural application

文化が創造する新しい社会のありかたを追求

日本テレマン協会は延原武春のもと、常に最新の試みと新しい価値観の創造をめざす文化活動を続けてきました。大阪倶楽部を舞台にした室内楽コンサート、教会聖堂での宗教音楽公演にはじまり、パロック楽器・クラシカル楽器によるアプローチや、ベートーヴェンのテンポ指示を忠実に守った「第九」など、その例を挙げればきりが無いと言っても過言ではありません。

また中野順哉が協会に入ることで、「社会の営み」を意識した試みも開始。演奏活動を通じた琵琶湖の水質を浄化やポルネオの森林保存、あるいは地域の歴史を題材にした講談とのコラボレーションな

ど、文化団体による社会づくりの新たな可能性も追求してきました。

2011年に中野が代表となることで、目下当協会は「独自のオピニオンを持ち、シンクタンクを内包する団体」を目指しております。崩壊寸前のコミュニティの再生や、大阪の国際発信力強化などが最近のテーマではありますが、おかげさまで多くの人々に共感をもって受け入れていただくことが出来つつあります。これまで育てていただいた人々・地域に対し、我々に何が出来るのかを試行錯誤を通して探求できればと考えております。

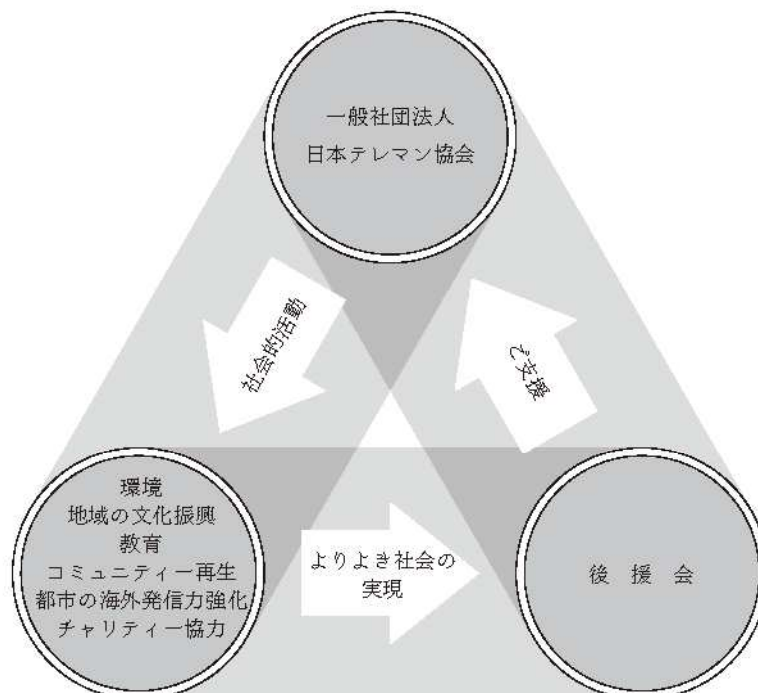
同時にこのような研究を重ね活動を

続けていけるのは、我々の活動に対し深く理解して下さる支援団体があるからに他なりません。

そこで今年度も冊子の形で、ご支援くださった皆様に我々の社会活動についてご報告をさせていただくことに致しました。この冊子が皆様のよりいっそうのご理解を深め、末永いご支援をいただける「パスポート」となることを願ってやみません。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

日本テレマン協会
日本テレマン協会後援会



◎ 2013年度における協会の活動を支えてくださった皆様

・日本テレマン協会後援会

| | | |
|-------|-------------------|------------------------------|
| 会 長 | 野村 明雄 | (大阪ガス株式会社 相談役) |
| 副 会 長 | 浦上 敏臣 | (住友生命保険株式会社 相談役) |
| | 脇阪 聡史 | (朝日放送株式会社 代表取締役社長) |
| 理 事 | 鍛冶舎 巧 | (パナソニック株式会社 常務役員) |
| | 原 真一 | (コーナン建設株式会社 代表取締役社長) |
| | 北山 隆 | (大阪音楽大学名誉教授) |
| | 宮島 登美子 | (TMS代表) |
| | 小野 敏夫 | (NPO法人クラシック音楽興隆会 理事長) |
| | 砂野 耕一 | (川崎重工株式会社 社友) |
| | 室町 鐘緒 | (株式会社三菱東京UFJ銀行 名誉顧問) |
| | 山口 昌紀 | (近畿日本鉄道株式会社 取締役会長) |
| | 時政 幸雄 | (関西電力株式会社 執行役員) |
| | 井上 礼之 | (ダイキン工業株式会社 取締役会長兼CEO) |
| | 森川 敏雄 | (株式会社三井住友銀行 特別顧問) |
| | 佐野 吉彦 | (安井建築設計事務所 代表取締役社長) |
| | 羅 辰雄 | (株式会社蓮葉 代表取締役社長) |
| | 入谷 泰生 | (日本クルーズ客船株式会社 代表取締役社長) |
| | 鳥井 信吾 | (サントリーホールディングス株式会社 代表取締役副社長) |
| | 吉田 有宏 | (千寿製薬株式会社 代表取締役社長) |
| | 杉浦 正 | (共和コーポレーション株式会社 代表取締役) |
| 顧 問 | 井戸 敏三 | (兵庫県知事) |
| | 荒井 正吾 | (奈良県知事) |
| | 久元 喜造 | (神戸市長) |
| | パトリック・ジョセフ・リネハン | (アメリカ総領事) |
| | インゴ・カールステン | (ドイツ総領事) |
| | シャルル・アンリ・ブロンソー | (フランス総領事) |
| | ローデリック・ウォルス | (オランダ総領事) |
| | ナイリ・M・ラチャーポフ | (ロシア総領事) |
| | マルコ・ロンバルディ | (イタリア総領事) |
| | クリストフ・ドゥ・パッソンピエール | (ベルギー大使館公使参事官) |
| | レー・クオク・ティン | (ベトナム総領事) |
| | 李 賢主 | (駐大阪大韓民国総領事) |
| | 陳 舜臣 | (作家) |
| | 多川 俊映 | (興福寺貫首) |
| | 鶴澤 寛治 | (人間国宝 三味線奏者) |
| | ロニー・アレキサンダー | (神戸大学大学院教授) |
| | 池長 潤 | (カトリック大阪教区大司教) |
| | 千 宗守 | (武者小路千家 家元) |
| | 高口 恭行 | (一心寺長老) |
| | 小野 善康 | (経済学者) |
| 監 事 | 稲畑 勝雄 | (稲畑産業 取締役 相談役) |
| | 陳 英智 | (三洋実業) |

法人会員

| | | |
|--------------------|--------------------------|---------------------|
| (株) I H I 関西支社 | (株) 産業経済新聞社 | 日本郵船 (株) |
| あいおいニッセイ同和損害保険 (株) | 三幸メリヤス (株) | (株) 博報堂関西支社 |
| 愛知時計電機 (株) 大阪支社 | サントリーホールディングス (株) | (株) 白松 |
| (株) アークエース | J F E エンジニアリング (株) 西日本支社 | パナソニック (株) |
| 朝日放送 (株) | J F E スチール (株) | 阪急電鉄 (株) |
| 稲畑産業 (株) | 情報技術開発 (株) | (株) 阪神住建 |
| 今津建設 (株) | 新コスモス電機 (株) | (株) 三井住友銀行 |
| 江崎グリコ (株) | 住友生命保険相互会社 | 三菱電機 (株) 関西支社 |
| (株) エンボウ | 千寿製菓 (株) | (株) 三菱東京UFJ銀行 |
| 大阪ガス (株) | (株) 損害保険ジャパン | ムジカティー |
| (株) 大林組 | ダイキン工業 (株) | 矢崎エナジーシステム (株) 大阪支店 |
| (株) カネカ | (株) 大広 | (株) 安井建築設計事務所 |
| (学) からたち幼稚園 | (株) 大丸松坂屋百貨店 | 山名酒造 (株) |
| 関西テレビ放送 (株) | (株) 竹中工務店 | UCC 上島珈琲 (株) |
| 関西電力 (株) | (株) 丹陽商会 | (医) 友仁会浅井整形外科 |
| (株) 共和コーポレーション | (株) データコントロール | 讀売テレビ放送 (株) |
| 近畿日本鉄道 (株) | 東京海上日動火災保険 (株) | (株) ロイヤルホテル |
| (株) きんでん | 中井エンジニアリング (株) | ロックペイント (株) |
| (有) 神戸楽譜 | (医) 中野クリニック | トップツアー (株) |
| コーナン建設 (株) | 日本クルーズ客船 (株) | (財) 職業技能振興会 |
| 桜宮ゴルフクラブ (株) | 日本生命保険 (相) | |

東京法人会員

東京ガス (株)
大阪ガス (株) 東京支社
西部ガス (株) 東京事務所
東邦ガス (株)
フルライン (株)

休会

(株) りそな銀行

個人会員

| | | | | | | |
|--------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|
| 北山 靖子 | 浅沼 健一 | 高橋 香 | 仲窪 菜穂子 | 和久 公子 | 松倉 英子 | 大島 真理夫 |
| 塩田 邦博 | 廣川 信一 | 松本 好史 | 竹澤 代資一 | 里見 悦子 | 中西 守 | 黄田 漢康 |
| 阿部 牧郎 | 橋本 公宏 | 角南 忠昭 | 三好 具子 | 直田 春夫 | 永重 史郎 | 宮本 敏子 |
| 藤田 直照 | 羅 辰雄 | 延 秀恵 | 吉田 好道 | 大西 國忠 | 野村 明雄 | 岡本 千賀子 |
| 川岸 弘賢 | 南 茂夫 | 延 敏恵 | 米沢 康 | 石村 孝夫 | 長濱 一郎 | 竹田 忠士 |
| 小島 百合子 | 小林 誠 | 平田 キヨ | 杉浦 正 | 重森 哲二 | 信楽 義彦 | |
| 小川 寛 | 松村 達 | 浜辺 正昭 | 中川 淳一 | 堀 則明 | 浜野 りさ | |
| 高 仁宝 | 東條 良賢 | 大西 淑子 | 藤田 興二 | 山田 信吾 | 有賀 熙雄 | |
| 北浦 告三 | 高田 満國 | 越田 重雄 | 岩田 由孝 | 松倉 孝夫 | 黒田 千之 | |

東京個人会員

小野 敏夫
中島 久仁子
小野 久恵
樋口 多聞
石井 ふみ子
田中 佐代
梶原 健司
木下 新九郎

文化が創造する新しい社会の
ありかたを追求

1 環境

1-1

琵琶湖水質浄化の紙
(=レイクパピルス) の使用 7

1-2

サラヤ株式会社との協働による
「ボルネオの環境保全」 8

2 地域の文化振興

2-1

各地のサロンづくり 9

2-2

講談とのコラボレーションによる
「音楽絵巻」 12

2-3

平野の第九 14

2-4

大阪商工会議所の活動への参加 14

3 教育

3-1

日本テレマン協会の学校公演 15

3-2

大阪市ユースオーケストラの指導・育成 16

3-3

アマチュア団体の指導・育成 16

4 コミュニティ再生

4-1

大大阪ターフェルムジーク 17

4-2

四季の森なごみにおける公演 17

4-3

ヴィヴァルディ「四季」の可能性 (大垣市) 17

CONTENTS

5 都市の海外発信力強化

5-1

オランダ総領事館公邸公演 18

5-2

アメリカ総領事館公邸公演 18

5-3

ハンブルク市・大阪市

友好都市提携 25 周年記念公演 18

6 チャリティー協力

日本テレマン協会とチャリティー 18

日本テレマン協会について 19

Telemann Institute Japan

The marriage of social and cultural application

1 環境

1-1

琵琶湖水質浄化の紙

(=レイクパピルス) の使用



(参考: レイクパピルスのロゴマーク)

2000年より日本テレマン協会では、主な主催公演のチラシ、プログラムに琵琶湖の水質浄化を目的とする紙「レイクパピルス」を使用してきた。2000年当初はその企画が新聞・ラジオ・テレビで大きく取り上げられ、「環境」などをテーマに社会貢献という姿勢をいち早く示した演奏団体として、挙手することに成功した。

2013年度におけるレイクパピルスの使用は以下の通りである。

1: プログラムの使用

- ・一部につき400リットルの浄化
- ・今年度はマンスリーコンサートに8回、定期演奏会に2回、東京定期演奏会に4回使用
- ・合計5,700部作成
- ・2,280,000リットル(2,280トン)を浄化

2: チラシの使用

- ・一部につき200リットルの浄化
- ・今年度はマンスリーコンサートに6回と教会音楽シリーズに4回使用
- ・合計38,000部作成
- ・7,600,000リットル(7,600トン)を浄化

3: その他印刷物

1 「2012年度社会的活動報告」冊子の表紙

- ・一部につき200リットルの浄化
- ・600部印刷
- ・120,000リットル(120トン)

2 「大大阪ターフェルムジーク」レポートにおける使用

- ・一部につき200リットルの浄化
- ・1,500部印刷
- ・450,000リットル(450トン)

4: 2013年度に浄化した総計

- ・10,450トン

合計で10,450トンの水を浄化したという計算になる。さらに他団体への呼び掛けも進んでおり、2010度より大阪市ユースオーケストラでもレイクパピルスが積極的に使われるようになった。



(参考: 2000年4月26日 朝日新聞)

2010年度よりサラヤ株式会社との協働により、マレーシア・ボルネオ島の熱帯雨林保全などを含めた「環境保全プロジェクト」に着手。計画の具体的な内容は年間6回の定期演奏会（大阪2回／東京4回）のチケット収入の1パーセントを、ボルネオの環境保全などに還元するというもの。その意図するところは代表の中野順哉による以下の提唱に基づいている。

「私たちは大阪の団体である以前にアジアの団体であり、また我々の日常はアジアの自然によって支えられている。演奏活動もそういった日常の上に成り立っているのであれば、そこから得た収入の一部を原点の保護にかえすべきではないか。2010年からの新機軸として『アジア・東洋の演奏団体』であることを、演奏を通して認識し直すような活動をしたい」

ただ、日本テレマン協会には「ボル

ネオの環境問題」についてその現状を直接見聞きした者は無く、現地で何が大切なかを正確に理解しているとは言い難い。そこでその分野での活動経験の長いサラヤ株式会社に「年間6回の定期演奏会のチケット収入の1パーセント」をお預けして、今一番大事だと思われる活動への支援にあてていただくこととなった。

最初は「プランテーション化を防ぐ上での土地の取得に特化していただくことは出来ないだろうか」というテレマン協会からのリクエストもあり、それを受け丸形で「ボルネオ保全トラスト※1」がおこなう「緑の回廊※2」計画への支援という形になった。

テレマン協会が「最初は土地の取得で」ということに固執した理由は、大きく二つある。一つは野生の動植物と人間の共存には、「緑の回廊」の早急な実現が必要であると判断したこと。

もう一つの理由は協会音楽監督の延原がこよなくオランウータンを愛しているということも。

こういったもろもろの協会側の思いを、サラヤ株式会社は快く引き受け今回の協働が成立した。現段階はまずボルネオの森だが、その後様々な展開へと結び付けていきたいと両者は考えている。文化の団体と企業が一緒に「未来のためにできること、そして継続できること」「本当の文化的生活」の意味を演奏者・お客様とともに考えていければ、と思っている。

なお2013年度も引き続き、ボルネオの森林保護の問題とともに、震災への息の長い復興支援をも継続させたいという考えから、サラヤ株式会社との協議の結果、以下のような形の寄付を行うことになった。

- ・寄付する先は「ボルネオ・トラスト・ジャパン」
- ・目的はボルネオの森林保護
- ・ただしボルネオ・トラスト・ジャパンは、寄付金の50パーセントを「ジャパン・プラットフォーム」に寄付。
- ・結果的に、ボルネオの森林保護と震災復興への継続可能な支援が可能になる。

2013年度の寄付額は3万5千円。200円一口で昼一昼分の森を買い取るというトラストの活動に則った言い方を借りれば175畳の森を保全したことになる。

※1「ボルネオ保全トラスト」とは

ボルネオ保全トラストは、マレーシア・サバ州政府認可の環境保全団体です。野生生物局の関係者や生物学者、環境団体およびサラヤ側らによって設立され、傷ついた野生動物の救出活動のほか、生態調査や生息域となる「緑の回廊」実現に取り組んでいます。

日本窓口：ボルネオ保全トラスト ジャパン
www.bctj.jp

※2「緑の回廊」計画とは

アブラヤシ・プランテーション（農園）の無秩序な拡大による熱帯雨林の減少は、野生の動植物の生存危機だけでなく、動物と人間の間に摩擦を生み様々なトラブルを引き起こしています。そこでボルネオ保全トラストでは、野生の動植物の生存に最低限必要とされる川沿岸の開墾地を買い戻して森に再生し、プランテーションによって分断されてしまった森をつないで一つの大きな森「緑の回廊」にする計画に取り組んでいます。

「緑の回廊」が実現すれば、動物たちの食糧や繁殖機会の確保につながり絶滅危機を回避することができるだけでなく、動物の生息域と農業用地の両立という「環境と産業の両立」が実現できると考えられています。



ボルネオ保全トラストジャパンからの感謝状

2 地域の文化振興

2-1 各地のサロンづくり

関西クラシック国産宣言にも謳われるように日本テレマン協会はこれまで、アンチコンクール主義を標榜してきた。サロンを形成し、そこに集う演奏家と聴衆が一緒になって独自の価値観を生み出し、そこから奏者を育てゆく——マンスリーコンサートを通して長年培ってきたこの「サロン→独自の価値観」という図式を、協会としては周辺の都市でも展開し、またその範囲を広げようとしている。「町が変われば価値観も変わる」という「細分化された地方分権的な文化発信」を可能にする環境作りが、グローバル化—価値の均

池田アゼリア公演

1977年より継続しているサロンコンサート。ある一定の時期に建設された市民会館の大半には、まだ「室内楽の公演」という意識はなく、音楽用には大ホールしかないというケースが多かった。元来池田市民会館もこのケースに属していたが、市の文化財団の熱意により、会館のエントランスをステージ

にして、室内楽の演奏会をはじめることになった。現在は会館内にイベントスペースが整備され、新たなシリーズが定着しつつある。固定ファンをベースに毎回200人規模のサロンが形成され、大阪倶楽部とは違った価値観を形成しつつある。2013年度の内容は以下の通り。

2013年 7月20日 第39回パロックコンサート J.S.バッハとヴィヴァルディ
会場：池田市民文化会館3階イベントスペース
曲目：G.Ph.テレマン/ヴァイオリン協奏曲
A. ヴィヴァルディ/ヴァイオリン協奏曲集「四季」より「夏」ほか
出演：指揮／お話／延原武春 チェンバロ／高田泰治 ヴァイオリン／浅井咲乃
ヴァイオラ／姜 隆光 テレマン室内オーケストラ

伊丹酒蔵公演

2000年より継続しているサロンコンサート。伊丹市文化振興財団では「みやのまえ文化の郷」の活性化やPRに積極的に取り組んでいる。日本テレマン協会も以前は「いたみホール」を舞台に、サロンコンサートの開催協力をしてきたが、2007年よりこの町の活性化企画に参加することに。会場は旧

岡田家の酒蔵。毎回満員御礼で秋の名物となりつつある。またもともと「酒蔵で聞く」ということに興味を持っていた客層より「テレマンの音をもっと良い環境で聞きたい」という意見が多く出て、2013年5月18日アイフォニックホールでも公演。

2013年の内容は以下の通り。

2013年5月18日 テレマンのパロックの音楽の宴
第20回記念 スペシャルコンサート
会場：伊丹アイフォニックホール
曲目：A. ヴィヴァルディ/ヴァイオリン協奏曲 二長調「ムガール大帝」ほか
出演：指揮／延原武春 チェンバロ／高田泰治
ヴァイオリン／浅井咲乃 テレマン室内オーケストラ

2013年10月26日 テレマンのパロック音楽の宴 vol.21
テレマン VS J.S. バッハ
会場：みやのまえ文化の郷 伊丹市立伊丹郷町館 旧岡田家住宅・酒蔵
曲目：G.Ph.テレマン/2つのヴァイオリンのための協奏曲 イ長調
G.Ph.テレマン/オーボエ協奏曲 ホ短調 ほか
出演：チェンバロ／高田泰治 MC／延原武春 テレマン室内オーケストラ

貝塚コスモシアター公演

2005年から、コスモシアターとともに企画したサロンコンサート。チェンバロ、ヴァイオリン、ヴィオラ、オーボエ…様々な楽器や、カルテット、国によってかわる鍵盤楽器の魅力など、毎回テーマを明確にした講演型公演。年3回で構成されている。一時間の演奏会の後、

お客とともに奏者もお茶とお菓子を楽しむ。

この公演をモデルとし、全国のホールに「サロン」を移植してゆく…というのもこの公演シリーズの大きな特徴だ。すでに宮崎県などに複数回紹介している。

2013年度の公演は以下の通り。

ティータイム コンサート シリーズ XIII チェンバロの利き酒
2013年8月28日 フレミッシュスタイルチェンバロ
2014年1月18日 フレンチスタイルチェンバロ
2014年3月21日 ジャーマンスタイルチェンバロ
会場：貝塚市民文化会館 コスモシアター
出演：チェンバロ／高田泰治 MC／延原武春

一化のなかで、日々重層性を増していると思われる。文化団体によるサロンづくりが、その地域に、時に需要の形、時に観光立国の可能性、時に「ここの住民であるという誇り」…様々なベクトルをもった可能性の芽を生み出し、ポテンシャルを最大限に引き出す。そんな文化にしかできない社会づくりの実例を今後も積み上げていきたいと考えている。

2013年度における「衛星サロン」の活動は以下のとおりである。

高槻現代劇場公演

2005年より継続しているサロンコンサート。文化レベルの高い高槻の市民層により愛される高度な内容で構成されている。ただ、2013年度は、2012年度末にメンデルスゾーン「エリア」という規模の大きな公演を開催したこともあり、サロンコンサートを一時休止。2014年度に公演を予定している。

アバンザランチタイムコンサート

巨大な書店などでも利用者の多い堂島アバンザ。このオフィスビルのエントランスを舞台に無料コンサートを展開。2009年より日本テレマン協会が本格的にプロデュース参加。コンテンツは以下の通りであった。中でも10月の浅井咲乃によるヴィヴァルディ「四季」全曲公演は200人以上の聴衆が集まった。「四季」の公演はその後も同時期の「名物プログラム」として継続している。

2013年 5月10日 第81回
ついに登場！延原武春&テレマンアンサンブル
2013年 6月 7日 第82回
延原武春&テレマン・プチ・アンサンブル
2013年10月18日 第85回
A. ヴィヴァルディ「四季」全曲
2013年12月12日 第86回
アバンザより愛をこめて…
2014年 2月14日 第87回
大阪のサロンが育んだ響き

松原ゆめニティー公演

1993年より継続しているサロンコンサート。駅近くの多目的スペースを舞台に、ポピュラーな曲目からマニアックな内容まで幅広いプログラムで楽しませられている。どのよ

うな切り口でも「なんとなく集まる」という客層をすでに有しており、ジェネレーションも2代目、3代目へと引き継がれている。

2013年度の内容は以下の通り。

2013年3月13日 第15回テレマン・アンサンブル演奏会 ～ちょっと欲張りなバロック名曲集～
会場：ゆめニティプラザ
曲目：G.Ph.テレマン/3つのヴァイオリンのための協奏曲 へ長調 より 第一楽章
A. マルチェロ/オーボエ協奏曲 二短調 ほか
出演：指揮・オーボエ/延原武春 チェンバロ/高田泰治
ヴァイオリン/浅井咲乃・三谷彩佳・中山裕一・大谷史子 テレマンアンサンブル

うえまちコンサート

2008年より継続しているサロンコンサート。NPO法人まち・すまいづくりは「住んで楽しいまちづくり」をテーマにコーポラティブ住宅の推進と、市民参加のセミナーなどの開催を手掛けている団体。活動の本拠は上町台地周辺地域で、地域密着型の情報伝達媒体となる『うえまち』も発行している。

そして更なる魅力あるまちづくりを目指して、まち・すまいづくりは2008年よりタウンコンサートを始めた。「うえまちコンサート」と題されたこのシリーズは、会場を上町

台地にある様々な「集いの場」においているのが特徴。ホテルのチャペル、神社、寺、博物館…。第3回公演より協会としても正式に「協力」という形で参加することになった。

どちらかと言えばポピュラーな路線を好む傾向のあるサロンコンサートだが、中にはチェンバロによるかなりマニアックなソロコンサートや、海外からのアーティストが参加する公演もあり、緩急取り混ぜたコンテンツとなっている。

2013年度の公演は以下の通り。

2013年4月20日

第21回うえまちコンサート音楽絵巻「幽霊は永久に語る…」

会場：大阪歴史博物館 講堂

曲目：G.Ph. テレマンノトリオ・ソナタ ト長調 TWV42g5

J.S. バッハノヴァイオリンと通奏低音のためのソナタ ハ短調 BWV1024 ほか

音楽絵巻「幽霊は永久に語る…」

特別展「幽霊・妖怪画大全集」解説

出演：ヴァイオリンノウツラ・ブンディーズ オーボエノ延原武春

チェンバロノ高田泰治 創作講談ノ旭堂南左衛門（上方講談協会）

特別展解説ノ岩佐伸一（大阪歴史博物館学芸員）

2013年7月27日 第22回うえまちコンサート バロックのタベ

会場：大阪市立美術館

曲目：G.Ph. テレマンノ3つのヴァイオリンのための協奏曲 第一楽章

J.S. バッハノモテット 第3番 「イエスよ、わが喜び」

A. ヴィヴァルディノ「四季」全曲 ほか

出演：ヴァイオリンノ浅井咲乃、大谷史子、中山裕一 指揮ノ延原武春

テレマン室内オーケストラ 特別出演ノ同志社混声<シャンテ>

2013年10月13日 第23回うえまちコンサート

一心寺三千佛堂が「チェンバロの聖地」となる瞬間

会場：一心寺 三千佛堂

曲目：J.S. バッハノ「平均律クラヴィア曲集 第1巻」より プレリュードとフーガ

ヘンデルノ組曲 第5番 ホ長調 HWV.430 “調子のよい鍛冶屋” ほか

出演：チェンバロノ高田泰治

2014年1月26日 第24回うえまちコンサート「能楽堂でバロック」第5弾

会場：山本能楽堂

曲目：G.Ph. テレマンノオーボエとリコーダーのためのトリオ・ソナタ 二短調 TWV 42:d1

四声のための協奏曲 イ短調 TWV55:a2 ほか

出演：オーボエノ延原武春 リコーダーノ北山隆 ヴァイオリンノ浅井咲乃

チェロノ曾田健 チェンバロノパブロ・エスカンデ

2-2 講談と室内楽のコラボレーションによる「音楽絵巻」



地域の郷土史家などに直接取材をし、それを創作台本にして音楽をおりまぜる「音楽絵巻」という企画。主に講談などの日本の古典芸能と室内楽が共演。郷土史を見直し、地域住民とともに新たな発見をめざす完全なオー

ダーメイドのコンサートである。

この企画がスタートしたのは2002年だが、その後各地における認知度も高くなり、現在のべ93公演を実施。講談の作品数にして100作を突破している。

《これまでの「音楽絵巻」が実施してきた地域振興のありかた》

1 地域の問題の解決や若年層に対するアプローチ

- 若年層に地域の魅力を伝えるため、オープニングに地域の中高生（演劇部など）に出演してもらい、用意した「口上」を講談師とともに述べる。
- 同じく若年層に地域の魅力を伝えるため、テーマとなった御当地ゆかりの人物について地域の書道家や学生に話をし、そこから得たイメージをもとに書を書いてもらった。→当日会場にて展示
- 著名な作家によって地域的には「不当」な評価を与えられた人物を、違った視点で再評価してほしいというオファーがあった。
- ベッドタウンとして発展したエリアが、時間とともに老朽化し、その地域に住んでいながら「地域について何も知らない」という層を持つ…その打開を目指したいというオファーがあった。

2 舞台内容の立体化

- プロジェクターなどを使用し、ストーリーに関連した地域の風景や地域に残る古い絵や写真を公演中に映し出した。そういったデータの収集や編集にも地域の人が参加。
- 御当地ゆかりの歴史的な建造物をステージにした。
- 舞台効果をさらにあげる工夫を要求してきた公演もあった。結果的にはホリゾンなどを利用したのだが、地域の歴史などに興味をもった照明の専門家との協働という形をとることになった。

3 取材網の拡大にともなう取材内容の深化

- 地元の郷土史家からの取材だけではなく、それを専門とする研究者に対しても独自の取材を行った。そうすることで地域の郷土史家の打ち出したいテーマを、より輪郭の整ったものにするのが可能になった。
- またテレマン協会独自の取材網で、歴史研究者とのコンタクトを取ることが出来るようになってきている。次年度以降、複数の地域と合同で公演を企画するプランが進みつつある。

4 地域特産品など物品販売の促進

- 演奏会会場で地域の特産品・開発商品などを販売。



原則的に台本に対する著作権はフリーとし、二次利用、三次利用がしやすい状況を提供し続けている点も評価されている。ネット配信などを通し、町の魅力を広く伝えることが出来るツールとして幅広く使用してもらい

たいと考えている。

また複数のジャンルの講演とリンクさせた企画を作りたいという主催者も出てくるなど、より深い地域とのふれあい・心の通う文化振興の可能性も出てきている。

2013年度の公演詳細は以下の通りである。

(2013年度「音楽絵巻」実績)

- 2013年 6月 中央電気倶楽部：大阪：音楽絵巻「断片」～七世鶴澤寛治の思い出～
- 2013年 9月 京都府立府民ホールアルティ：京都：音楽絵巻「山本覚馬」
- 2013年11月 旧西本組本社ビル：和歌山：音楽絵巻「チェレビー」
- 2014年 3月 ソフィア・堺(中文文化会館ホール)：大阪：音楽絵巻「鈴木賢太郎新伝」

講談・朗読コラボレーション公演及び地域活性化講談公演のこれまでの履歴【参考】

| | | | |
|----------|--|----------|--|
| 2002年 3月 | 安土文芸セミナー：滋賀：音楽絵巻「信長の聴いた音楽」 | 2007年11月 | 三田市総合文化センター：兵庫：三田西陵高等学校音楽鑑賞会 |
| 2002年 5月 | 神戸新聞松方ホール：兵庫：「メサイア」(日本テレマン協会公演) | 2007年11月 | 天理南中学校：奈良：文化祭イベント |
| 2002年 6月 | 大阪電気通信大学特別講座：大阪：講談「ヘンデル一代記」 | 2008年 3月 | 小野市うるおい交流館エクラ：兵庫：音楽絵巻「加古川筋一揆」 |
| 2002年 6月 | 高槻現代芸術劇場：大阪：音楽絵巻「ヘンデル一代記」 | 2008年 5月 | 安土文芸セミナー：滋賀：音楽絵巻「信長が愛した音楽」 |
| 2002年 8月 | 石川県立音楽堂：石川：音楽絵巻「利家の聴いた音楽」 | 2008年 6月 | 神戸町グリンデルホール：兵庫： 神河音楽絵巻「銀の馬車道今むかし」 |
| 2002年11月 | 尼崎市近松記念祭：兵庫：講談「国姓爺合戦」 | 2008年10月 | 伊賀上野城天守閣：三重：音楽絵巻「藤堂高虎」 |
| 2002年11月 | 丹波国際音楽祭企画：兵庫：講談「走れメロス」「魔王」 | 2008年10月 | 彦根観光協会(会場は彦根城博物館 能舞台)：滋賀： 彦根音楽絵巻「開国物語 井伊直弼外伝」 |
| 2003年 2月 | 柏原高等学校：兵庫：講談「おさん茂兵衛」 | 2008年10月 | 大阪商工会議所(会場はフジハラビル)：大阪： 音楽絵巻「フジハラビル物語」 |
| 2003年 3月 | 鳳鳴高等学校：兵庫：講談「おさん茂兵衛」 | 2008年10月 | 守山市民ホール：滋賀： 守山音楽絵巻「人ゆえに、愛ゆえに…」 |
| 2003年 6月 | 良塚市民文化会館コスモシアター： 大阪：「モーツァルトVSベートーヴェン」 | 2009年 1月 | 松江市総合文化センタープラバホール：島根： 音楽絵巻「松江城今昔秘話」 |
| 2003年 7月 | 大阪電気通信大学特別講座：大阪： 講談「ヴィヴァルディー代記」 | 2009年 2月 | びわこビジターズビューロー(開催地は江戸東京博物館)： 東京：ひこにゃんのてくてく「歴史街道」 |
| 2003年 7月 | 新宮市民会館：和歌山：音楽絵巻「西村伊作」 | 2009年 2月 | 日本郵船「飛鳥II」南太平洋グランドクルーズ： 音楽絵巻「大江山奇談。鬼の道に、横道なし」 |
| 2003年11月 | 秋篠音楽堂：奈良： クララ・シューマンによる「ショパンとリスト」 | 2009年 3月 | 丹波の森公園ホール：兵庫： 創作講談と音楽のコラボレーション「恋路の丹波刀旅」 |
| 2004年 4月 | 神戸市立葺合高等学校：兵庫：講談付き学校公演 | 2009年 6月 | 有馬・念仏寺：兵庫：講談と室内楽公演「小さな島国のオルガン」 |
| 2004年 5月 | 大阪電気通信大学特別講座：大阪：講談「バッハ一代記」 | 2009年 7月 | 大津市民会館：滋賀：音楽絵巻「淡海街道物語」 |
| 2004年 7月 | 大阪倶楽部：大阪：大阪新音企画・音楽絵巻「近代文学散歩」 | 2009年10月 | 近江八幡市立資料館：滋賀：音楽絵巻「一柳満喜子伝」 |
| 2004年 9月 | 神戸新聞松方ホール：兵庫：音楽絵巻「アマテス」 | 2009年10月 | 伊賀上野：三重：講談ウォーク「筒井定次」「藤堂高虎」他 |
| 2004年10月 | 熊野市民会館：三重：音楽絵巻「源平盛衰記」熊野古道編 | 2010年 6月 | 大和高田さざんかホール：奈良：音楽絵巻「真・役小角伝」 |
| 2004年10月 | 湖東町(現東近江市)：滋賀：音楽絵巻「湖東商人銘々伝」 | 2010年 7月 | 兵庫県立芸術文化センター主催：兵庫：「キャンディード」プレ |
| 2004年11月 | 姫路東中学校：兵庫：講談付き学校公演 | 2010年 9月 | 伊賀県民局エントランス：三重：音楽絵巻「伊賀の乱」 |
| 2004年11月 | 東京国立博物館：東京：音楽絵巻「森鴎外」 | 2010年10月 | 伊賀県民局エントランス：三重：音楽絵巻「藤堂高虎」 |
| 2004年12月 | 播磨町教育委員会：兵庫：音楽絵巻「漂泊」(講談「ジョセフ彦」) | 2010年11月 | 伊賀県民局エントランス：三重：音楽絵巻「藤堂高吉」 |
| 2004年12月 | 住吉区：大阪：音楽絵巻「熊野街道」 | 2010年11月 | りそな銀行大阪本店地下講堂(ドイツ文化センター主催)： 大阪：音楽絵巻「恋模様の旅路」 |
| 2005年 1月 | 日本郵船「飛鳥II」オセアニアクルーズ：音楽絵巻「漂泊」他 | 2010年12月 | 多気町民文化会館：三重：音楽絵巻「二人の客人(まろうど)」 |
| 2005年 2月 | 近江八幡市民会館：滋賀：音楽絵巻「心に華開く時」山田良定 | 2011年 5月 | 小野市うるおい交流館エクラ：兵庫：ふるさと小野音楽絵巻III 「一柳満喜子伝～我もまた、いずれの日にか…」 |
| 2005年 2月 | 大和高田さざんかホール：奈良：音楽絵巻「義経の七つ石」 | 2011年 5月 | 茨木市市民総合センター：大阪： 音楽絵巻「茨木にこの男あり 片桐東市正旦元にて候」 |
| 2005年 4月 | 伊賀上野市民会館：三重：音楽絵巻「荒木又右衛門」 | 2011年 7月 | ハーモニーホールふくい：福井： 音楽絵巻「お江…越前北ノ庄哀歌」 |
| 2005年 5月 | 大江山町：京都：世界鬼学会講演・講談「大江山異聞」 | 2011年 9月 | 日本クルーズ客船「パシフィックビーナス」日本一周クルーズ： 音楽絵巻「源平合戦外伝」 |
| 2005年 9月 | 高知県グリーンホール：高知：音楽絵巻「山内一豊」土佐編 | 2011年10月 | 灘区民ホール：兵庫：なだ音楽絵巻 「真・平清盛伝・編編～改革者一海原に見た夢～」 |
| 2005年11月 | 東京国立博物館：東京：葛飾北斎展企画「真曾我兄弟」他2話 | 2011年10月 | 伊賀上野城天守閣：三重：音楽絵巻「藤堂高虎伝」 |
| 2006年 1月 | 山東町ルッチプラザ：滋賀：音楽絵巻「石田三成」 | 2011年10月 | 五條市市民会館：奈良：歴史音楽絵巻「救世主・松倉重政」 |
| 2006年 3月 | 小野市うるおい交流館エクラ：兵庫：音楽絵巻「長祿の変」 | 2011年12月 | 三木市文化会館：兵庫：兵庫県立三木高等学校音楽鑑賞会 |
| 2006年 7月 | 金光八尾高等学校：大阪：講談付き学校公演 | 2012年10月 | 高槻現代劇場：大阪：キリンダマ大・高槻城主「高山右近」と 九州・大友宗麟の歴史の謎に迫る ～特別歴史解読と創作講談がつづるパロッド音楽絵巻～(2回公演) |
| 2006年 7月 | 三鷹市風のホール：東京：音楽絵巻「新・功名が辻」 | 2013年 1月 | 豊中市立ローズ文化ホール：大阪：音楽絵巻「豊中愛伝説」 |
| 2006年 7月 | 掛川市シーネ：静岡：音楽絵巻「山内一豊」掛川編 | | |
| 2006年 7月 | 日本郵船「飛鳥II」カムチャツカクルーズ： 音楽絵巻「ある日の大黒屋光太夫」 | | |
| 2006年 9月 | 大阪市役所：大阪：音楽絵巻「モーツァルト」 | | |
| 2006年10月 | 羽曳野市リックはびきの：大阪：音楽絵巻「源氏三代記異聞」 | | |
| 2006年10月 | 東郷町：愛知：音楽絵巻「とうとう六景」 | | |
| 2006年10月 | 名張市青少年センター：三重：音楽絵巻「藤堂高吉一代記」 | | |
| 2007年 2月 | NECマイタウンコンサート：福岡：九州交響楽団共演 | | |
| 2007年 4月 | 横須賀芸術劇場：神奈川：音楽絵巻「三浦一族記異聞」 | | |
| 2007年 9月 | びわこビジターズビューロー(開催地は神奈川県民ホール)： 神奈川：音楽絵巻「信長が愛した音楽」 | | |
| 2007年 9月 | 大東市サーティーホール：大阪：音楽絵巻「ならり大東今むかし」 | | |
| 2007年 9月 | 伊丹ホール：兵庫：宝塚西高等学校音楽鑑賞会 | | |

2-3 平野区の「第九」

2000年より一般市民の希望者を公募し合唱団をつくり、「五カ年計画」でベートーヴェン作曲の交響曲第9番を指導。毎年達成したところまでを発表し、5年後には最後まで歌えるようにすると

いう、直接的に「地域の文化意識の向上」を実現させようという企画。市民の喜びは大きく、計画達成後、2006年度より毎年平野区の恒例行事として継続されている。

2012年度の公演は雑誌「音楽之友」の取材対象となった。(2013年1月号「オーケストラのある風景」)

【2013年度の公演】

2013年12月19日
平野区クリスマスコンサート
～テレマン室内オーケストラと

ひらの混声合唱団を迎えて～

会場：コミュニティプラザ平野

曲目：G.F.ヘンデル/「メサイヤ」～「ハレルヤ」

バッハ=グノー/アヴェ・マリア

G.カッチーニ/アヴェ・マリア

L.v.ベートーヴェン/交響曲 第9番

第4楽章

クリスマスキャロル

出演：指揮：オーボエ/延原武春

ソプラノ/藤田瑞穂

アルト/葉谷佳苗

テノール/中塚昌昭

バス/林康広

テレマン室内オーケストラ

ひらの混声合唱



(2013年1月号「オーケストラのある風景」)

2-4 大阪商工会議所の活動への参加

大大阪レトロナイト

大阪の夜の新しい魅力をPRするため、大阪商工会議所、大阪市、大阪観光コンベンション協会が推進する活動。大阪に残る近代建築を舞台に、様々な

ジャンルの催しを広く広報するといふもの。日本テレマン協会としては2013年度は、以下のコンサートにおいて、この活動に参加した。

- 2013年 4月23日 大阪倶楽部：第441回マンスリーコンサート
- 2013年 7月12日 大阪倶楽部：第442回マンスリーコンサート
- 2013年 8月26日 大阪倶楽部：第443回マンスリーコンサート
- 2013年10月28日 大阪倶楽部：第444回マンスリーコンサート
- 2013年11月 8日 大阪倶楽部：第445回マンスリーコンサート
- 2013年12月 2日 大阪倶楽部：第446回マンスリーコンサート
- 2014年 1月21日 大阪倶楽部：第447回マンスリーコンサート
- 2014年 2月25日 大阪倶楽部：第448回マンスリーコンサート



古典芸能×近代建築船場クイズラリー

大阪商工会議所の主催する観光と地域の魅力再認識をめざした試み。クイズラリーという形で日本テレマン協会の

マンスリーコンサートも参加。またチケットなどの景品も協力した。

大阪検定

検定合格者に対し、その級に合わせてプライスの違うコンサートチケットを提供。日々のコンサートも大阪の歴

史を毎度重ねていることに…その現場の証言者となってもりたいと言う思いからの参加である。

3 教育

3-1 日本テレマン協会の学校公演

日本テレマン協会は発足以来「子供向け」ではなく「子供のための」を基本コンセプトに各地で学校公演を開催してきた。その方向性も多様であり、通常の公演のほかにも演奏を得意とする生徒をソリストにした公演や、地域の子供たちで

一緒に歌う「第九」といった共演なども行ってきた。更には養護学校、不登校児童、重度の知的障害者などを対象にした公演も実施してきた。我々の公演に出会うことで実際に演奏家を目指したという例もある。

最近では講談によって音楽家像を描き、古典芸能の魅力から音楽に親しんでもらおうという試みも行っている。同時に興味の多様化する子供たちに対応すべく、身近な曲をバロック的に編曲し、それを共演することによって楽しみながら



このジャンルの魅力を体感してもらおうという試みも始めている。さらにはパナソニック株式会社との提携により、環境問題に対する問いかけを加味したプログラムも。「温暖化の中で失われる天然素材。楽器作りにも大きな影響を与えかね

ない状況をプロジェクターなどで紹介し、今聴いている音・感動を次世代の子供たちにも聞かせるためには…。」そんな問いかけとともにヴィヴァルディ「四季」を聞いて考えるという内容。

2013年度は文化庁の体験事業にも

採択された。バロック音楽の魅力をそのまま伝えるということに留意した内容で、あえて敷居を低くするということは避けられたプログラムを提供している。

2013年度の学校公演は以下の通りである。



2013年 9月18日 加古川市立神野小学校
2013年 9月19日 高砂市立竜山中学校
2013年 9月25日 姫路市立水上小学校
2013年 9月26日 姫路市立伊勢小学校
2013年 9月30日 高松市立桜町中学校
2013年10月 1日 高松市立大野小学校
2013年10月 2日 丸亀市立岡田小学校
2013年10月 3日 石井町藍畑小学校

2013年10月 4日 徳島市加茂名南小学校
2013年10月22日 芦屋市立精道中学校
2013年10月23日 神戸市立長田南小学校
2013年10月24日 三田市立ゆりのき台小学校
2013年11月19日 四国中央市立上分小学校
2013年11月20日 四国中央市立長津小学校
2013年11月21日 西条市立中川小学校
2013年11月22日 松山市立番町小学校

2013年11月25日 愛南町立城辺小学校
2013年11月26日 四万十市立中筋中学校
2013年11月27日 いの町立神谷小中学校
2013年11月28日 美馬市立重清東小学校
2014年 2月 4日 神山町神領小学校
2014年 2月 5日 三豊市立曾保小学校
2014年 2月 6日 今治市立近見小学校

3-2 大阪市ユースオーケストラの指導・育成

延原武春は1980年代よりゲルハルト・ボッセらとともに大阪市ユースオーケストラの団体・奏者の育成に従事し、これまでに漆原啓子など多くの演奏家を輩出してきた。2010年からは団員の自主性の育成や、音楽を通してのコミュニケーションを図るために室内楽にも取り組み始めた。現在でも延原のほか、今井良及びテレマン室内オーケストラの奏者による指導・教育は継続されている。さらに2010年からは社会的貢献も視野に入れ、レイクパピルスの使用も開始した。

【2013年度の活動】

2013年5月20日 一般財団法人大阪市教員会館設立60周年記念コンサート
会場：なにわのみやホール
出演：指揮/今井 良
大阪市ユースオーケストラ
曲目：F.メンデルスゾーン/弦楽のためのシンフォニア 第7番 二短調 ほか

2014年1月25日 福島区PTA協議会成人活動委員会 依頼公演
会場：福島区民センター
出演：指揮/今井 良
大阪市ユースオーケストラ
曲目：J.シュトラウス/トリッチ・トラッチ・ポルカ
雷鳴と電光
田園のポルカ ほか

3-3 アマチュア団体の指導・育成

フィルハーモニア福岡

2000年夏に福岡市内の大学オーケストラ出身者が結成したアマチュア管弦楽団。延原武春はその結成当初より指導・育成に当たっている。現在は参加者も増え約50名が在籍。年二回のペースで定期演奏会を続けている。

【2013年度の定期演奏会】

2013年7月15日 第25回定期演奏会
開場：西市民センターホール
出演：指揮/延原武春
曲目：L.v.ベートーヴェン/交響曲第1番八長調 ほか

2014年2月16日 第26回定期演奏会
会場：アクロス福岡
出演：指揮/延原武春
曲目：R.シューマン/交響曲第3番変ホ長調「ライン」 ほか

コードリベット・コール

1952年に櫻井吉明氏が結成した大阪のアマチュア合唱団。1971年の共演以来日本テレマン協会との関係を深め、櫻井氏亡き後、音楽監督の延原武春が指導・育成に携わってきた。2013年度は、日本テレマン協会主催による東日本大震災追悼コンサートにて共演。ブラームス「ドイツ・レクイエム」を好演。

【2013年度の活動】

2014年3月11日 東日本大震災追悼・復興祈念コンサート
会場：いづみホール
出演：指揮/延原武春 ソプラノ/木村能里子 バス/篠部信宏
orchestraJAPAN2011
曲目：J.ブラームス/ドイツ・レクイエム ほか



2014年3月11日 東日本大震災追悼・復興祈念コンサート

4 コミュニティー再生

4-1 大大阪ターフェルムジーク

協会創立 50 周年を記念し、代表の中野順哉がプロデュースした公演。大阪・京都・神戸・西宮・堺の 5 都市で、4 月 28 日～6 月 17 日の間に 40 公演のフリースペースにおける無料コンサートを開催した。またその締めくくりには、4

つの近代建築を舞台に、七世鶴澤寛治(三味線奏者・人間国宝)、多川俊映(興福寺貫首)、小野善康(経済学者)、橋爪紳也(大阪府立大学教授)の各講演を伴った演奏会を実施。橋下徹大阪市長夫妻も来られるなど大きな反響を呼んだ。



この企画の目指したところは「崩壊寸前のコミュニティの再生の可能性の模索」であった。中野は「日本の経済を救うのは、人間の心の覚醒であろう。より広く興味をもち、それを深めることで、より高度な需要が生まれる。そのために

文化のするべきことは山ほどある」と考え、もっとも我々にとって至近距離にある「心」の問題として上記の模索をしたと考えた。その結果は冊子にまとめられ、目下各地において中野の講演を通し問題提起を続けている。



4-2

四季の森 などみにおける公演

身体障害者施設「四季の森などみ」より、上記「大大阪ターフェルムジーク」の記事をみて公演のオファーがあった。「彼らを社会復帰させたい」という院長の思いを受け、ニューイヤーコンサートという形でヴィヴァルディ「四季」などを演奏。

彼らの社会復帰のために、実社会との交流に慣れてほしいという思いから、当日お客として近隣の住民も来場。テレマンの演奏に耳を傾け、じっと聞き入る利用者も多く、室内楽のもつコミュニティ再生の能力・ポテンシャルの高さを知る結果となった。

4-3 ヴィヴァルディ「四季」の可能性(大垣市)

「大大阪」の関連記事を読んでオファーがあった公演。公演としては通常の演奏会であったが、依頼内容は「『四季』全曲をお願いしたい」というものだった。

この大垣の公演は大雪の降る中で実施されたが、会館始まって以来のソルドア

ウトとなった。これをきっかけにテレマンのこれまでの同曲公演の集客実績を見直したところ、ほとんどの会場で同じような結果を生み出していたことが分かった。同時に「四季」は「第九」に並ぶ日本人のもっとも知っているクラシック音

楽であるにも関わらず、近年全曲公演をする会館が少なくなっている。

この曲による、4-1 で考えたコミュニティ再生——その実践を各地で始めることをテレマンは決意。そのきっかけとなる公演であった。

5-1 オランダ総領事公邸公演

オランダ総領事ローデリック・ウォルス氏の提案開催。テレマン協会は無料出演するかわりに、各国の総領事が集まるサロンをつくるというもの。当日はアメリカ、イタリア、ドイツ、パナマ、インドの総領事が参加。質の高いサロンを作り出すことができた。

テレマン協会としては「大阪・関西にはこういったことに協力する団体がある」というポジティブなイメージを、彼らに直接持ち帰ってもらいたいと考え出演。結果、同じようなことをしてもよいという総領事が複数挙手。関西のポジティブなイメージ PR のためにも、今後、こういったオファーを常にフリーで受け入れることを決意した。



5-2 アメリカ総領事公邸公演

オランダ総領事館に続いて開催。テーマは「国際女性デー」。それに合わせてテレマンもヴィヴァルディの「恋人」や、アメリカ人女性作曲家の作品を演奏。会場には多くの総領事や国際的に活動する様々な人が集まり、高度なサロンを実現化することが出来た。



5-3 ハンブルク市・大阪市

友好都市提携 25 周年記念公演

ドイツ総領事館・ドイツ文化センターの両者からの相談があり、ハンブルク市・大阪市友好都市提携の企画に参画。ハンブルクはテレマンの没した都市でもあり、2014 年一年を通し、16 公演を実施することを約束。

1 月～3 月の間に 5 公演を実施。内容は以下のとおりである。

6 チャリティー協力

日本テレマン協会とチャリティー

日本テレマン協会はこれまで阪神大震災やニューオリンズのハリケーン、JR 福知山線脱線事故メモリアルコンサートのほか様々な災害へのチャリティーコン

サート活動を続けてきた。クラシック音楽のコンサートに対する社会の受け入れ方が年々変化しつつある中で、人と人をつなぐ場であるという理念を協会とし

ては今後も大切にしてゆきたい。そういった意味で「チャリティーコンサート」への参加を積極的にすすめてゆく考えである。

2013 年度のチャリティーコンサートおよび募金活動への参加は以下の通りである。

- 1 : ポルネオの環境保全活動 (1-2 参照)
- 2 : マンスリーコンサートにおけるユニセフ募金活動への協力
- 3 : JVC 国際ボランティアセンターの主催による連続公演

【2013 年度の JVC 国際協力コンサート】

12 月 7 日 第 20 回大阪公演 ヘンデル「メサイア」
会場：いづみホール
共演合唱団：コードリベット・コール

12 月 14 日 第 25 回東京公演 ヘンデル「メサイア」
会場：昭和女子大学人見記念堂
共演合唱団：JVC 合唱団

※ JVC 国際協力コンサートとは

日本国際ボランティアセンター (JVC) の活動を応援するためのベネフィットコンサート。コンサートの収益は JVC に寄付される。実行委員長アイネス・M・バスカピルの「美しい楽曲『メサイ

ア』で、JVC のためのチャリティーコンサートを開きたい」という呼びかけに対しボランティアが集まり、1989 年「JVC コンサート実行委員会」が発足。以来東京では 18 回、大阪でも 13 回

の公演が催されてきた。日本テレマン協会は 1994 年よりこのコンサートに参加。2009 年以降は東京・大阪両公演に出演している。

日本テレマン協会について

延原武春によって創設されたバロックからベートーヴェンまでを専門とする室内楽団。「テレマン室内オーケストラ」と「テレマン室内合唱団」を有し、また「日本テレマン協会後援会」がサポートをしている。

設立は1963年。当時大阪音楽大学の学生だった延原武春が「バロック音楽の普及・啓蒙」と「楽しさ」をテーマに、新しい演奏会の可能性を追求すべく「テレマン・アンサンブル」を結成したのがその始まり。「定期演奏会」のほか、聴衆とともにサロンを形成しようとした「マンスリーコンサート」、宗教音楽を教会の聖堂で奏でる「教会音楽シリーズ」などを軸とし、関西を中心に全国的な活動を展開。1977年「文化庁芸術祭優秀賞」、1986年「第17回サントリー音楽賞」を受賞。

2008年にはベートーヴェンの交響曲全曲をクラシカル楽器にて公演。これが引き金となって延原は2009年ドイツ連邦共和国より功労勲章を受章。以後延原は日本フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団などを指揮し、好評を博したことは記憶に新しい。

2011年、代表が延原から中野順哉に交代。現在は「音楽団体が社会に対して出来ること」をテーマに、「琵琶湖の水質浄化」「街と音のコラボレーション」「ボルネオの森林保全プロジェクト」「関西発クラシック『国産』宣言」をはじめ様々なオピニオンをかかげた新しい団体として生まれ変わりつつある。



関西発クラシック「国産」宣言

新代表・中野順哉によって生まれたオピニオンの第一弾。きっかけは東日本大震災以後外国人の演奏家が来日しにくいという事態に陥った折、多くの新聞が「興業にどのような損害があるか」と報道していたことだった。中野としてはこの時期にこそ、クラシックの分野における「国産」とは一体何であったのかを問い直したいと考えた。「国産」とは「演奏家が日本人」という意味ではなく、この国で何が育まれたのかという「場」の力のこと。例えば大阪で毎月開催してきたマンスリーコンサート。「コンクールではなく国内のサロンから演奏家を生みたい」という延原武春の思いのもと、ここでは演奏家と聴衆がともに独特の価値観を生み出してきたといえる。その価値観をベースに高田泰治、浅井咲乃といった演奏家も輩出された。協会としてはこれを一つの生産的なモデルケースとし、また精神の支柱の一つとするべくロゴを作成し、協会の新たな旗印とすることにした。



テレマンとは



ゲオルク・フィリップ・テレマン。1681年3月14日～1767年6月25日。後期バロック音楽のドイツ人作曲家。バッハ、ヘンデルも足元に及ばない高い評価を受けていた作曲家で、大変な多作家としても有名。延原武春はテレマンの自叙伝にあった「人が喜ぶために作曲している」という言葉に感銘を受け、彼の名をかかげたグループを結成した。代表的な作品は「食卓の音楽」という曲集。食事の時に奏でる曲集という発想自体にテレマン独自の人に対する優しさがあると言える。

大変面倒見の良い人物でもあったようで、バッハの次男の名付け親でもあり、また自身がハンブルクで臨終の時を迎える際、後継者にその「次男」を指名したという逸話も残っている。またヘンデルとの親交は深く、ロンドンから様々な珍しい植物をヘンデルは彼宛に送っていたとか。またテレマンが「食卓の音楽」を出版する際、予約者の最初の方にヘンデルの名が入っていることも有名な話。

バッハ、ヘンデルにとっては「偉大なる先輩」であったテレマン。彼の作品だけではなく、その心意気を伝えたい…それが私たちの使命でもある。

延原 武春 TAKEHARU NOBUHARA (日本テレマン協会 音楽監督)

1963年 日本テレマン協会の前身である“テレマン・アンサンブル”を結成。以来50年余の歳月を経てその業績は目覚ましく、日本におけるバロック音楽の探究と普及という専門的領域のみならず、その広い視野と行動力によって、特に西日本の音楽文化の広範な普及に多大な貢献をもたらした後、近年では長年の古楽探究を礎とした音楽解釈とその熟練された手腕を持つ巨匠指揮者としての今後が多いに囑望されている。

指揮者としてライブツィヒ放送交響楽団をはじめとする海外のオーケストラとの共演の機会が幾度もあったにも関わらず、その主眼はあくまでも自らが創設した日本テレマン協会での活動に注がれた。

1970年代後半からその評価は関西を超えて全国的なものとなり、テレマン室内オーケストラ・テレマン室内合唱団との演奏は文化庁芸術祭・優秀賞やサントリー音楽賞を受賞するまでに高く評価されることとなり、さらにはライブツィヒで開催されたバッハ生誕300周年記念国際音楽祭に日本の団体としては唯一招かれ、J.P. ランバル、H.J. シェレンベルガー、A. ビルスマなどの名手との共演の他、J.E. ガーディナー、F. ブリュッヘン、C. ホグウッド、G. ポッセ等とも親しく交流することとなる。

延原武春の音楽的業績は、教会の聖堂を舞台としてテレマン作曲の『マタイ受難曲』やヘンデルの『メサイア』9種類の異版を取り上げるなど枚挙に暇がないが、殊にユークなのが1982年にベートーヴェンの第九交響曲を初演当時の編成と作曲者指定のテンポに従って演奏すること・・・これはその当時としては極めて斬新なアプローチであったため、ガーディナーやホグウッドといった古楽演奏家達が延原の第九の録音を所望したというエピソードは大変興味深い。

延原のベートーヴェンに対するアプローチはこれに留まるものではなく、2008年にはクラシカル楽器によるベートーヴェン：交響曲全曲・合唱幻想曲・ミサ・ソレムニス・ツィクルスを挙げる。これが契機となり延原は『ドイツ連邦共和国功労勲章功労十字小授章』を授賞することとなった。

2009年には大阪フィルに客演。2010年～12年には同楽団は延原とともにベートーヴェン：交響曲全曲シリーズを主催。『「大阪フィルの次代を拓く」と言って過言ではない名演』と『「田園」がかくも力強く、生命力にみちた音で鳴り響いたことはなかったのではないか』(評：故小石忠男/日本経済新聞9月30日夕刊)等と絶賛を博するなど一際大きな話題となった。

また、同時期に日本フィル横浜定期演奏会にも客演。その際のプログラムは：交響曲第1番は EXTON レーベルから CD 化された。2011年には延原の元に多くのプレイヤーが集う”一日だけのオーケストラ”として Orchestra Japan 2011 が結成され、マーラー：交響曲 第4番を演奏。その演奏はライブノーツ・レーベルからリリースされ『レコード芸術』誌で特選盤に選ばれ、これらの成果が契機となってこのオーケストラは2012年にも再結集され、京都・大阪・神戸でやはりロマン派のレパートリーを取り上げている。

かつて、アーノンクールやガーディナーといった古楽のスペシャリストたちがヨーロッパのモダン・オーケストラから指揮者として招かれるようになったのと似通ったムーブメントが今、延原武春のもとにも起ころうとしている。



中野 順哉 JUNYA NAKANO (日本テレマン協会 代表)



作家。小説作家・阿部牧郎、浄瑠璃台本を人間国宝の七世鶴沢寛治の各氏に師事。関西学院大学在学中より日本テレマン協会の活動に参加。1993年には同協会の季刊誌「ゲオルク」を立ち上げる。卒業と同時に作家・阿部牧郎に師事。2000年、伴ピーアール社製の琵琶湖浄化の紙(レイクパピルス)を、チラシ、プログラムやゲオルクの表紙に使用。テレマン協会の活動が年間5000トン以上の湖水を浄化するというこの企画は、テレビ、ラジオ、新聞等で大きく取り上げられ話題を呼んだ。

同年9月、日本テレマン協会第137回定期演奏会「ヘンデル・オラトリオ本邦初演シリーズ『スザンナ』」において、ナレーション用の講談台本を執筆。これを機会に旭堂南左衛門とともに創作講談を手掛ける。同時に各地の歴史を掘り起こし創作講談と音楽のコラボレーションをプロデュースしながら、文化振興につとめている。講談の執筆は90作以上にのぼる。

2011年、延原武春の後を継ぎ、日本テレマン協会代表に就任。「関西発クラシック国産宣言」などを始め「音楽家が社会に対して出来ること」という視点でオペラオンを発信し続けている。

テレマン室内オーケストラ

作家活動としては2000年に「小説・延原武春」を出版している。

1963年に指揮者・延原武春が結成。延原の指揮のもとテレマン作曲「マタイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」等数々の作品を本邦初演。

1990年バロック・ヴァイオリンのサイモン・スタンディジをミュージック・アドバイザーとし、バロック楽器(18世紀当時の楽器およびそのレプリカ)による演奏を始める。2003年にはドイツのバッハ・アルヒーフから招聘を受け「バッハ・フェスティバル」に出演し、C.P.E. バッハ「チェンバロ協奏曲 Wq1」を世界初演した。

2006年からはクラシカル楽器(古典派の時代に使用された楽器およびそのレプリカ)による演奏を始め、2007年には同楽器による F.J. ハイドンのオラトリオ「四季」を好演。「大阪文化祭賞グランプリ」を受賞した。

2012年、ドイツよりヴァイオリニスト、U. ブンディースを首席客演コンサートマスターとして招き、新たな方向の音づくりに力を注いでいる。



テレマン室内合唱団



1968年に延原武春が創設した合唱団。主にテレマン室内オーケストラとともに演奏活動を続けており、1985年にはドイツで開催された「J.S. バッハ生誕300周年記念国際音楽祭」に招聘され現地でも話題となる。カトリック夙川教会に於ける「教会音楽シリーズ」は公演回数160回を数え、当合唱団にとっての最も大きな活躍の場となっている。これまでに、ヘンデルの10種類の違ったバージョンを年一回のサイクルで連続的に公演した「メサイア10年連続公演シリーズ」、「ヘンデル本邦初演オラトリオシリーズ」、或いは、幻のテレマン作受難曲集の公演「テレマンプロジェクト」、「延原武春の受難曲シリーズ」などを開催してきた。

1960's

- 延原武春氏を中心にテレマンアンサンブル発足 (63) (現:テレマン室内オーケストラ)
- ◎マンスリーコンサートスタート (63)
- 定期演奏会スタート (65)
- ◎津村別院でのマンスリースタート (68)
- ◎テレマン室内合唱団が発足し、室内楽における総合団体「大阪テレマン協会」となる (69)

●大阪文化祭賞 (66 以後 72 と 82)

1970's

- ◎モーツァルトサロンでのマンスリースタート (70-75 まで 毎日国際サロンでは 84 まで)
- 教会音楽シリーズスタート (71)
- 教会音楽シリーズ特別公演テレマン作曲「マタイ受難曲」を東京・大阪で本邦初演。さらに” 皆で歌おう Sing-in メサイア” を開催 (75)
- 「大阪テレマン協会」から「日本テレマン協会」に改称 (79)
- テレマン室内合唱団創立 10 周年を記念して、初めて J.S. バッハ「マタイ受難曲」をノーカットで演奏する (79)

●音楽クリティッククラブ賞 (70 以後 75 と 76)

●大阪府民劇場賞 (75 以後 85)
●文化庁芸術祭優秀賞 (77) (関西より初受賞)

ビクターレコード制作「テレマン協会シリーズ」発売開始 (77)

1980's

- G.Ph. テレマン生誕 300 年を記念し、コンサート(文化庁芸術祭主催)、出版、レコード発売を行う (81)
- 定期演奏会にて L.v. ベートーヴェン交響曲第 9 番「合唱付」を合唱団・オーケストラ合わせて 100 人で演奏 (100 人の第九) (82)
- ◎マンスリーの会場が大阪倶楽部になる (84)

▽テレマン室内管弦楽団がドイツを演奏旅行。テレマンの生地マクテブルクでの公演実現 (82)

●サントリー音楽賞 (85) (関西より初受賞)

▽テレマン室内合唱団・同管弦楽団総勢 70 名、東ドイツを演奏旅行。「ハッハ生誕 300 年記念国際音楽祭」には日本唯一の楽団として出演 (85)
▽「ベルリン市制 750 年記念音楽祭」に参加。また、ロンドンデビュー公演が実現。「ソウル国際音楽祭」参加。日本の室内楽団では初の韓国公演 (87)
▽フランス革命 200 年を記念し、パリ、ボルドー、ヴァルドアース各都市で公演を行う (89)

- テレマン室内合唱団が創立 20 周年を迎え、教会音楽シリーズも 100 回記念演奏会を行う (89)

1990's

- バロック楽器の団体「コレギウム・ムジカム・テレマン」が発足。サイモン・スタンディッシュや中野振一郎主導のもとで、様々な試みに着手。海外公演や CD 収録の他、数多くの本邦初演・世界初演を行う。
- G.F. ヘンデル「メサイア」の異なった 9 種の版を連続的に公演。(91'01)
- 季刊誌「ゲオルク」創刊 (93~03)
- G.F. ヘンデルの權威・故渡部憲一郎氏の監修のもと、ヘンデル作曲の本邦初演のオラトリオをジェスチャー付きで連続公演。(95'01)
- 中野振一郎&コレギウム・ムジカム・テレマンによるドイツ演奏旅行 (99)

| ヘンデル「メサイア」10年連続演奏会 (9回まで実施) | | |
|-----------------------------|--------|---------------------|
| 1991年 | 9月 2日 | 1742年タプリン版 |
| 1994年 | 2月 27日 | Vol. 1 1743年ロンドン初演版 |
| 1995年 | 6月 25日 | Vol. 2 1749年版 |
| 1996年 | 2月 18日 | Vol. 3 1750年I版 |
| 1997年 | 6月 18日 | Vol. 4 1752年I版 |
| 1998年 | 4月 26日 | Vol. 5 1751年版 |
| 1999年 | 6月 27日 | Vol. 6 1750年II版 |
| 2000年 | 7月 2日 | Vol. 7 1752年II版 |
| 2001年 | 6月 10日 | Vol. 8 1753年版 |

2000's

- ヘンデルのオラトリオ公演にて、上方講談師・旭堂南左衛門が共演 (00)
- 琵琶湖水質浄化の紙の使用開始。演奏会を通じた環境改善活動に着手 (00)
- 小説「延原武春」(作:中野順哉)が東方出版より出版 (00)
- 御当地の歴史を取材した創作講談とのコラボレーション「音楽絵巻」がスタート (02)
- 高田泰治がチェンバロ、フォルテピアノ、ピアノを弾き分ける協奏曲のタペに出演し、ソリストデビュー。(02)
- 中野振一郎率いるコレギウム・ムジカム・テレマンが渡独。「バッハ・フェスティバル in ライプツィヒ 2003」に出演し、C.P.E. バッハ作曲「チェンバロ協奏曲」の復元世界初演を行う。(03)
- 協会創立 45 周年を記念して、延原指揮によるベートーヴェン交響曲全曲及び合唱幻想曲、荘厳ミサ曲連続公演が催される。ベートーヴェンの指示したテンポとクラシカル楽器の使用によるこの公演は高く評価され CD に。(08)

デンオン制作「J.S. バッハ：チェンバロ協奏曲集」(00)
マイスター・ミュージック制作「ラ・フォリア」(02)
「バッハ以降のチェンバロ協奏曲集」(02)
ライヴノーツ制作「オーボエ協奏曲：バロック名曲集」(03)、
「星に願いを」(04)「テレマン作品集②7つのトリオ・ソナタ」(08)
「ベートーヴェン・チクルス」(09-11)

●ハイドン作曲オラトリオ「四季」の公演が大阪文化祭グランプリ受賞 (07)

●延原、ドイツ連邦共和国より功労勲章を受章。(09)

2010's

- 延原が大阪フィルハーモニー交響楽団を指揮するシリーズが始まる。ベートーヴェン交響曲全曲を公演。(10)
- 延原、日本フィルハーモニー交響楽団の定期演奏会を指揮。(10)
- 協会代表が延原から中野順哉に。(11)
- コレギウム・ムジカム・テレマン解散 (11)
- 「指揮者・延原で」というコンセプトのもと、関西在住のフリーランスの奏者を集めオーケストラを結成 (orchestra Japan 2011) し、マラー交響曲第 4 番を演奏。(11)
- U. ファンディース、首席客演コンサートマスターに就任。(12)
- 延原、orchestra JAPAN2011 を率いてドヴォルザーク交響曲「新世界より」を好演 (12)
- 創立 50 周年事業「大大阪ターフェルムジーク」を中野のプロデュースのもとで開催 (13)
- orchestra Japan 2011 を再結成し、3月11日にレクイエムを奏で続ける追悼公演を開始 (14)

オクタヴィアレコード制作「ブラームス：交響曲第 1 番」(11)
ライヴノーツ制作「高田泰治チェンバロ・アルバム Vol.1」(11)、
「マラー『亡き児を偲ぶ歌』交響曲第 4 番」(12)
「浅井咲乃：ヴィヴァルディ『ムガール大帝』」(12)
「U. ファンディース 高田泰治 J.S. バッハ 6つのソナタ」

2013年度版 日本テレマン協会 社会的活動報告

発行 日本テレマン協会

〒530-0002

大阪市北区曾根崎新地2丁目1-17

TEL06-6345-1046

FAX06-6345-1045

tij@cafe-telemann.com

<http://www.cafe-telemann.com/>

